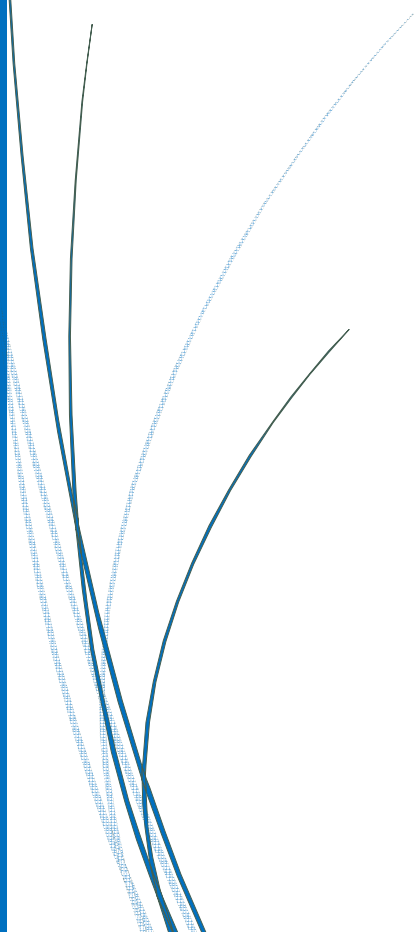




令和5年度天理市まち・ひと・しごと創生

総合戦略 進捗報告書



# 目次

1. 地域資源と新しい技術・多様な働き方を融合し、安心・充実して働ける場を創出する。1	
1-1. 地域産業の振興・競争力強化.....	2~3
1-2. 企業の誘致・創業支援.....	4~5
1-3. 多様な就労環境・人材マッチングによる雇用促進.....	6~7
2. 天理ならではの魅力を活かし、新しい人の流れをつくる.....	8
2-1. 地域資源を活かした交流・集客の推進.....	9~10
2-2. シティプロモーションの推進.....	11
2-3. 移住・定住化の推進.....	12
3. こどもを産み育てたい人の希望が叶う、選ばれるまちになる.....	13
3-1. 安心して結婚・出産・子育てができる環境の充実.....	14~15
3-2. 特色ある教育の充実.....	16
3-3. 地域で育てる子育ての推進.....	17
4. 垣根を越えた連携・協働で、暮らしやすく、住み続けたいまちをつくる.....	19
4-1. 地域で支え合う暮らしやすいまちづくり.....	20~21
4-2. 健康づくりの環境の充実.....	22
4-3. 垣根を越えた連携の取組み.....	23~25

# 1 地域資源と新しい技術・多様な働き方を融合し、安心・充実して働ける場を創出する

## 政策分野の方針

地域を支える産業を活性化するとともに、市内外からの新たな活力を呼び込み、地域内に好循環を生むことによって、市民が安心・充実して働ける場を創出します。

市内外の企業や人材・新しい技術や多様な働き方を組み合わせる施策を積極的に推進し、本市で働きたい人が働くことができる場と魅力的な雇用の創出を通じて、働き盛り世代の転出抑制を図ります。



### 数値目標の検証及び今後の取組み

#### 【市内事業所従業者数】

H28 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
27,759人	—	—	30,420人	—	—	27,500人

経済センサス活動調査（5年ごとの実施。直近は令和3年度に実施。）の発表では、市内事業所従業者数は増加しています。要因として、(株)トライアルカンパニーや(株)クスリのアオキ等の大型スーパー、(株)エクセディの工場等の立地が進んだためと考えられます。引き続き、企業立地支援制度における雇用促進奨励金の周知やハローワーク奈良等と連携した面接会等の実施により、市内での雇用の促進を図っていきます。

#### 【ハローワークへの年間求人数（市内企業・事業所）】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
12,511件	10,743件	9,372件	9,886件	9,508件	10,044人	13,000件

新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことに伴い、様々な社会活動が再開され、多様な業種での雇用が活発化したことで、令和4年度に比べて求人数が増加したと考えられます。ハローワーク奈良と連携したしごとセンター及びインターネット求人登録の周知、合同就職面接会の開催により、市内における求人数のさらなる増加を図っていきます。

## 1-1 地域産業の振興・競争力強化

本市の地域経済を支えるため、賑わいを創造するとともに市内消費を拡大し、足腰の強い産業基盤と市民が安心して働ける場の充実を実現します。また、農業生産基盤の充実、農業経営の安定化により担い手の確保と持続可能な生産現場の強化に努め、暮らしの中に息づく身近な農の充実に努めます。

### KPIの検証及び今後の取組み

#### 【市内事業所数【全産業】】

H28 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
2,523件	2,757件 ※事業内容等不 詳事業所含む。	—	2,422件	—	—	2,360件

市内事業所数は、経済センサス活動調査（5年ごとの実施。直近は令和3年度に実施。）によると、令和3年は2,422件となりました。小規模かつ高齢の事業者の廃業が進んでいるため、商工会や奈良県事業承継・引継ぎ支援センター等の関係機関と連携して事業承継や異業種交流による事業の維持・創出に取り組んでいきます。

#### 【中小企業融資制度利用事業者数】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
57件	54件	9件	42件	73件	44件	57件

新型コロナウイルス感染症が第5類に移行し、天理市中小企業融資の借換制度が終了したことにより、コロナ禍前と同水準の件数に落ち着きました。引き続き、奈良県信用保証協会に対する保証料の全額負担と金融機関からの融資利率の半分を市が負担（上限1%）することにより、事業者支援を継続して行います。

#### 【ネット販売参加事業所数】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
30事業所	35事業所	36事業所	36事業所	36事業所	36事業所	40事業所

ネット販売参加事業者数は令和2年度以降増減はありませんが、ふるさと納税事業等と合わせた新たな販路の拡大策として、本市ネットショップ「わが街とくさんネット」を紹介することで、参加事業者数の増加へと繋げていきます。

**【10a以上農用地の荒廃農地等面積】**

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
8.9ha	16.2ha	16.8ha	19.2ha	17.3ha	16.4ha	8.5ha

農業担い手の高齢化や相続未登記の土地による耕作放棄地の増加に加え、地理的条件（道路・水路等）が悪く、農地中間管理機構を通しての貸し出しが出来ない土地が残っている状態です。日頃の農地パトロールにより耕作放棄地予備軍については早急に対応をし、地理的条件などにより以前から残っている放棄地については、非農地判断を進めていきます。

**【農地中間管理機構を活用した農地集積累計面積】**

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
26.5ha	34.5ha	41.7ha	64.7ha	82.8ha	91.2ha	42.0ha

機構集積協力金(※1)事業を活用し、農業法人にまとまった農地を集積することができました。また、農業法人以外の新規就農者や認定農業者への集積も着実に増加し、農地中間管理事業の周知が進んでいます。人・農地プラン(※2)を推進するなかで、農地中間管理機構と連携し、地域の担い手への農地集積を図ります。

(※1)機構集積協力金・・・農地中間管理機構に農地を貸付け、農地集積・集約化に協力する地域及び農業者に交付するもの

(※2)人・農地プラン・・・各地区で農業者や地域における農業の将来のあり方などを明確にしたもの

**【50歳未満の新規就農者累積数】**

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
26人	30人	36人	40人	42人	49人	50人

令和5年度は、本市特産農産品（いちご）を生産する新規就農者が5人、水稻を生産する新規就農者が2人、合計7人の増加となりました。

新規就農者育成総合対策制度(※)を活用し、経営が不安定な就農直後の経営確立を支援することで、新規就農者の確保に努めます。

(※)新規就農者育成総合対策制度・・・経営が不安定な就農直後に経営開始資金として最大1,000万円を支援する制度（令和4年度新設）

## 1-2 企業の誘致・創業支援

新産業・企業の誘致や創業支援を積極的に推進することで、本市に新たな活力を呼び込むとともに市民に就労の場を提供し、地域経済の活性化と新たな雇用創出を図ります。

### KPIの検証及び今後の取組み

#### 【企業立地件数（奨励金対象）】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
4件	4件	(累計)7件 (3件)	(累計)10件 (3件)	(累計)13件 (3件)	(累計)13件 (0件)	25件 (5年間累計)

企業誘致・立地促進を進めた結果、市内の事業所数は増加しましたが、令和5年度は奨励金対象となる事業所の新規申請が無かったため、目標値には及びませんでした。立地可能性の高い候補エリアの選定を進め、県外の企業フェア等でパンフレットを配布するなど奨励金制度の効果的な啓発に努め、企業立地件数の増加を図ります。

#### 【法人登記事業所数】

H29 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
1,279社	1,280社	1,301社	1,251社	1,310社	1,358社	1,300社

積極的な企業誘致等により、令和4年度より約50事業所の増加となりました。引き続き商工会や奈良県よろず支援拠点等の関係機関と連携し、創業支援や企業誘致に取り組めます。

#### 【創業支援相談・支援件数】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
101件	129件	54件	76件	86件	180件	120件

新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、経済活動が活発化したことで創業の機運が高まり、創業支援相談・支援件数が令和4年度より大幅に増加しました。シャープ(株)との協定に基づくインキュベーション事業では、奈良県の大和平野中央構想・スタートアップ推進課が同社及び同社グループ会社との企業支援に係る連携を行うことになり、令和5年度末には先行している本市との4者協定を締結し、事業の更なる推進を図りました。

また、創業に必要なノウハウを身に付けてもらうため、商工会や奈良県よろず支援拠点と連携し、創業希望者等を対象とした“天理創業スクール”や“夢をかなえる土曜塾”を開講しました。天理創業スクールでは、令和5年度も定員を大幅に超える応募があり、第二創業(※)や様々な業種での創業を目指す参加者に対して支援を行うことができました。今後もシャープ(株)や商工会、奈良県よろず支援拠点と連携し、創業支援を推進していきます。(※)第二創業…既に事業を営んでいる企業の後継者等が新規事業を開始すること。また、既存の事業を譲渡(承継)した経営者等が新規事業を開始すること。

**【企業立地等に関する事前協議実施数】**

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
18回	8回	4回	10回	10回	15回	20回

新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことに伴い、企業活動が活発になり、市内産業用地の問い合わせが増加しました。立地可能性の高い候補エリアの選定を進めるとともに、奨励金制度の効果的な啓発を行うことで、本市への企業誘致へとつなげていきます。

**【新規雇用数（奨励金対象）】**

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
14人	4人	6人	24人	12人	0人	30人

企業誘致・立地促進を進めた結果、市内の事業所数は増加しましたが、奨励金の対象となる事業所での市内在住者の新規雇用がありませんでした。しかし、市内事業所数は増加しており、市内の創業数、雇用者数自体は増加しています。奨励金の対象となる事業所での市内在住者の雇用促進のため、今後も奨励金制度の効果的な啓発を行います。

### 1-3 多様な就労環境・人材マッチングによる雇用促進

若者や子育て世代をはじめとする幅広い年齢層の就労と地域産業の担い手を確保に向け、市内学生の就職支援やテレワーク等の多様な働き方の実現を推進するとともに、人材を求める市内企業との人材マッチングを充実して雇用を促進します。

#### KPIの検証及び今後の取組み

##### 【ハローワークを通じた若年者の就職数】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
183件 (R4.9修正)	305件	228件	233件	130件	130件	300件 (R4.9修正)

新型コロナウイルス感染症の第5類への移行に伴い、様々な社会活動が再開されていますが、若年労働人口の減少と就職数の低下が続いており、現在のところ横ばい状態となっています。引き続き、関係団体と連携し、相談事業等のきめ細やかな就職支援を行います。

##### 【ハローワークを通じた女性の就職数】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
298件	354件	276件	345件	313件	334件	300件

令和5年度は、子育て中の女性を支援するハローワーク奈良のマザーズコーナーと連携し、就職支援セミナーを初めて開催しました。引き続きハローワーク奈良と連携し、市内企業に対して、求職者が柔軟な働き方ができるような求人募集の奨励を行うほか、合同就職面接会等を通じて、求職者とのマッチングを図ります。

##### 【天理市しごとセンター就職件数】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
541件	580件	531件	514件	456件	499件	600件

令和4度より43件の増加となりましたが、ほぼ低水準での横ばい状態となっています。令和5年度は11月に文化センターの展示ホールで大規模合同就職面接会を実施し、市内8事業者、45種の求人募集についてマッチングを行いました。今後も引き続きハローワーク奈良と連携し、合同就職面接会等のマッチングの場を増やしていきます。

##### 【天理市産業振興館を活用したテレワーク関連事業への参加者数】



H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
115人	54人	236人	469人	278人	471人	120人

リモートワーク等の多様な働き方が定着したこと、テレワークセンターのリニューアルに伴いPRを強化したことにより、テレワーク等の利用者が大幅に増加しました。今後も引き続き利用者の増加に向けた環境づくりを行っていきます。

## 天理市オーガニックビレッジ

大和高原の福住地域をモデル地区として、有機農業の推進による地方の再生を目指し、令和6年3月に「天理市オーガニックビレッジ宣言」を行いました。

脱炭素化社会・循環経済への転換や持続的で環境にやさしい農業が求められる中、オーガニックのお茶のほか、野菜や薬草、ハーブなどの生産・加工に農家、住民、民間事業者などが一体となって取り組んでいます。

また、地域の里山を整備する際に出る落ち葉や草木、農業残渣などの地域の有機資源を堆肥として有効に活用し、環境に配慮した持続性の高い農業に取り組んでいます。



## 2 天理ならではの魅力を活かし、新しい人の流れをつくる

### 政策分野の方針

天理ならではの魅力を活かしたプログラムや、近隣自治体との連携を通じた周遊型観光振興を通じて、さらなる交流人口の拡大を図ります。また、国内外への情報発信強化や受入れ体制整備も行い、天理を知り、訪れ、体験してもらうことを通じ、関係人口の増加を図ります。

それらの関係人口及び交流人口がもたらす経済効果により、地域に好循環を生み出すとともに、移住促進のための情報提供やお試し居住等の新しいライフスタイルの提案も行い、本市へのU・I・Jターンを推進し、定住人口の増加につなげます。



#### 数値目標の検証及び今後の取組み

##### 【拠点施設等来訪者数】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
1,720,296人	1,908,847人	1,358,353人	1,258,420人	1,382,614人	1,419,294人	1,750,000人

市内外に向けての継続的な情報発信や、各拠点施設での魅力的なイベント等の開催によって、天理の拠点施設への来訪者を増加させることができました。若年層や、今後増加が予想されるインバウンド需要に向けた観光情報など、各種媒体での魅力発信を引き続き行っていきます。

##### 【市外からの転入者数】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
2,953人	2,910人	2,594人	2,379人	2,506人	2,525人	3,200人

転入者について、令和4年度と比較すると、令和5年度は19人の増加となったものの、過去5年間の数値を見ると減少傾向は続いています。令和3年度より天理教校学園高等学校の入学者の受け入れがなくなったこと（令和4年度に閉校）や市内特定団体関係者の減少による要因があると考えられます。

社会動態については、自治体の立地条件や住宅開発の影響も大きくありますが、令和6年度から天理市では「人口減少社会適応都市」として、人口減少を事実として受け止めながらも、雇用創出等に注力し、人口減少の抑制に努めていきます。

## 2-1 地域資源を活かした交流・集客の促進

歴史・芸術文化・スポーツ・音楽等、天理ならではの魅力を活かしたプログラムを企画するとともに、天理の持つ豊かさを広く情報発信することで、国内外から本市への豊かな人の流れを作ります。また、本市と近隣自治体が有する豊かな自然・歴史文化遺産の連携を通じて観光集客を促進し、利用者の拡大を図り、交流人口の増加を目指します。

### KPIの検証及び今後の取組み

#### 【トレイルセンター利用者数】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
169,933人	145,055人	133,455人	149,655人	166,920人	172,990人	175,000人

トレッキングや登山の人気の影響や自然に近い場所で時間を過ごしたい方が増加し、また、多様なイベントの開催により令和4年度よりも利用者数は増加しました。従来のハイキングや登山での利用者に加えて、自然に触れてゆっくりとした時間を過ごす方も増えているため、様々な利用者がより満足できる施設づくりに努めていきます。

#### 【ボランティアガイド案内実績】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
15,405人	14,518人	329人	348人	6,655人	7,945人	20,000人

新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度には大幅に減少しましたが、令和4年度以降新型コロナウイルス感染症の収束に伴い観光客数が回復してきています。今後、インバウンド需要の増加が見込まれるなど、さらなるガイド申込件数を増えることが予想されるため、より満足度の高いガイドを行えるよう、ボランティアガイド会員のスキルアップに努めていきます。

#### 【柳本駅舎観光利用者数】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
167,900人	164,250人	108,770人	118,990人	191,000人	194,000人	217,900人

山の辺の道、長岳寺及び天理市トレイルセンターへアクセスする人だけでなく、指定管理者による駅前広場を活用したイベントへの参加者や駅中食堂「ピクトン」の利用者が増加したことにより、令和4年度より駅舎観光利用者が増加しました。令和6年夏頃からはJR西日本がシェアサイクル事業を展開し、トレイルセンターへのアクセス及びJR沿線の周遊観光がしやすくなったことにより、駅舎利用者のさらなる増加が期待できます。今後もJR西日本及び指定管理者と協力して、利用者増加に繋がるイベント等を実施していきます。

**【天理駅前広場を活用したイベント開催数、集客数】**

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
406件 30,385人	530件 27,660人	342件 10,735人	426件 11,877人	499件 17,389人	484件 19,928人	540件 35,000人

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行されたことに伴い、天理駅前広場コフンでマルシェや音楽イベントなど約500件のイベントが開催されました。また、天理市PR大使の辻本美博氏がプロデュースする野外音楽フェス「CoFuFun FES.」が4年ぶりに開催されるなど、大きな賑わいを創り出すことができました。令和6年度からは新たに、天理駅前広場における産・官・学連携プロジェクトとして、天理大学・モンベル共同体が、大学生と協働して地域農業の付加価値化を目指した飲食の提供や地域内周遊観光の促進に向けた事業を実施し、賑わい・支え合いの好循環の流れを継続的なものとし、市内全体に波及させることを目指します。

**【スポーツイベント開催数、集客数（H26～の累計）】**

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
累計131件 累計37,283人	累計193件 累計53,068人	累計220件 累計56,871人	累計266件 累計62,426人	累計313件 累計69,189人	累計354件 累計75,253人	累計165件 累計47,000人

令和5年度は、ドッジボール大会やバスケットボール大会、奈良県主催のスポーツ大会など参加者が多い大規模なイベントも実施されたことにより、利用者数が増加しました。

今後も様々なスポーツイベントの開催による集客数の増加を図っていきます。

**【文化イベント開催数、集客数】**

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
148件 24,962人	13件 5,230人	19件 5,755人	33件 5,405人	163件 28,476人	245件 43,563人	150件 25,000人

天理市芸能大会や音楽フェスティバル等の各種イベントを開催したことで、賑わいを創出することができました。引き続き、市の施設を有効に活用し、イベントの開催・集客数の増加、文化振興の推進を図ります。

## 2-2 シティプロモーションの推進

本市の魅力を広く内外に発信するためシティプロモーションを推進していきます。多様な魅力を天理ブランド「めぐみ めぐる てんり」として確立し、それを市内外に積極的に発信することで、天理のファンを増やし、本市に「住み続けたい」「住んでみたい」「このまちが好き」と思ってもらえることを目指します。

### KPIの検証及び今後の取組み

#### 【天理ブランド認定数】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
—	—	0件	累計6件 (R3 6件)	累計11件 (R4 5件)	累計15件 (R5 4件)	累計25件 (5年間累計)

ブランド認定事業として、市内の地域資源を活かした魅力ある商品の掘り起こしを進めており、令和4年度に引き続き、認定産品を市広報紙やホームページ等で広く産品を募集し、認定審査会において新たに4品を「天理ブランド」として認定しました。今後は、各部門（食品・工芸品部門、農産品部門）において産品の認定を進めるとともに、ふるさと納税事業等と連携させながら、ブランドとしての魅力強化を図ります。

※令和5年度認定産品：柿の辺（柿チップ）、天理まんじゅう、天理スタミナラーメン、里山三年晩茶

#### 【公式ホームページ（HP）閲覧数及び公式SNSフォロワー（増加）数（件）】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
【HP閲覧数】 169,594件	【HP閲覧数】 207,401件	【HP閲覧数】 531,630件	【HP閲覧数】 473,395件	【HP閲覧数】 167,859件	【HP閲覧数】 226,898件	【HP閲覧数】 175,000件
	【フォロワー 増加数】 450件	【フォロワー 増加数】 1,325件	【フォロワー 増加数】 1,597件	【フォロワー 増加数】 486件	【フォロワー 増加数】 ※489件	【フォロワー 増加数】 500件

(※増加数(R5)内訳、Facebook 97件、Instagram 159件、LINE 233件)

市ホームページの積極的な更新等により、ホームページ閲覧数が増加しました。また、SNSではイベント・行事・スポーツ等幅広く天理の魅力を情報発信した結果、「Facebook」「Instagram」「LINE」においてフォロワー数（友だち数）が増加しました。引き続き、市HPでは市政に関する最新情報を迅速に発信していくことでHP閲覧数を伸ばしていきます。SNSでは有益な情報を提供できる体制を整えることで、既存のフォロワー数を維持しながら、更なるフォロワー数の増加に努めます。

## 2-3 移住・定住化の推進

豊かな自然を残しながらも、名阪国道等の道路網が整備された高原地域や山の辺の道周辺の歴史文化遺産を有し、風光明媚な地域での豊かなライフスタイルを求める幅広い世代の人々の呼び込みを図ります。

### KPIの検証及び今後の取組み

#### 【高原地域への移住世帯数】

H28～H30平均 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
5.3世帯	7世帯	(累計)21世帯 (R2 14世帯)	(累計)38世帯 (R3 17世帯)	(累計)49世帯 (R4 11世帯)	(累計)57世帯 (R5 8世帯)	35世帯 (5年間累計)

都市部から地方へのリビングシフトの機運や、自然豊かな環境での暮らし・子育てのニーズの高まりは継続しており、東部高原地域への移住希望者が多い状況が続いています。一方で、移住希望者に対し紹介できる空き家が不足しており、移住希望者のニーズに応えるためにも空き家の掘り起こしを積極的に行うほか、古民家活用に関心のある民間事業者と連携し、リノベーション等による空き家の活用を検討していきます。

#### 【天理市への移住に関する相談数】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
65件	92件	187件	206件	156件	103件	75件

新型コロナウイルス感染症の影響で、リモートワークや田舎暮らし等の需要が高まったこともあり、令和2年から急増していた利用者からの相談件数も、新型コロナウイルス感染症が落ち着くにつれ減少し、コロナ禍前の件数に戻りつつあります。一方で、空き家事例集の配布や市広報誌での情報発信により、所有者からの相談件数は高い水準を維持しています。

令和5年度に38人の空き家バンクの利用登録者がいる一方、物件登録は4件しかなく、物件の掘り起こしが急務であるため、利活用可能な物件の空き家バンクへの登録促進を図ります。

## CoFuFun FES.

天理駅前広場コフフンで「音楽を通じて天理のまちを元気にしよう!」のコンセプトのもと、天理市PR大使の辻本美博氏の所属するPOLYPLUSや花\*花など全国から11組のバンド・アーティストを招聘し、2日間にわたる音楽イベントを開催しました。ライブと飲食ブースにより大いに賑わい、2日間で約1,000名が来場されました。全国各地や海外からもファンが来場し、交流人口の拡大や天理の魅力発信等に貢献できました。



### 3 こどもを産み育てたい人の希望が叶う、選ばれるまちになる

#### 政策分野の方針

安心して結婚・出産・子育てができるよう、充実した制度や環境を整えることにより、出産や子育てにかかる不安・負担を軽減し、若い世代が結婚・出産・子育てに希望を持てる地域社会の実現を目指します。

天理ならではの特色を活かした国際交流・音楽・スポーツ等の体験活動を充実させ、子育て世代にとって魅力のある教育環境を確立するとともに、地域コミュニティ全体で子育てに携わり、これからの社会を生きるための力を持つこどもを育む施策を推進します。



#### 数値目標の検証及び今後の取組み

##### 【0～14歳人口（年少人口）】（各年度5月1日現在人口）

H30 （基準値）	R1	R2	R3	R4	R5	R6 （目標値）
8,214人	8,083人	7,973人	7,811人	7,575人	7,332人	7,829人

近年、少子化のスピードが加速し、国全体の出生数は2016年に初めて100万人を割り込み、2022年には80万人を割り込みました。本市も0歳人口（460人（R2）→421人（R3）→389人（R4）→365人（R5））が年々減少しており、出生数の減少が年少人口の減少の大きな要因となっています。

自然動態（出生数と死亡数の差）による人口減少の影響は年々増加していますが、令和6年度から天理市では「人口減少社会適応都市」として、人口減少を事実として受け止めながらも、子育てコンシェルジュの配置やドゥーラ事業を実施し妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援体制を構築し安心してこどもを産み育てられる環境づくりに努めていきます。

##### 【安心してこどもを産み育てられると感じる市民の割合】

R1 （基準値）	R2	R3	R4	R5	R6 （目標値）
33.7%	33.1%	37.5%	41.2%	39.3%	40.0%

前年度より減少していますが、令和6年の目標値に近づいています。令和5年2月より開始した出産・子育て応援交付金事業などの経済的支援と併せて、保健師や助産師、ドゥーラが妊婦や養育者に寄り添う伴走型相談支援を一体的に妊娠から子育て期において強化していきます。また、令和5年度より産後ケア事業の利用対象者を、4か月未満までの乳児から1歳未満までに拡充しており、産後の支援体制を充実させていきます。

### 3-1 安心して結婚・出産・子育てができる環境の充実

若い世代が希望どおりに結婚し子どもが持てるように、結婚から妊娠、出産、子育てに至るまで切れ目のない一貫した支援を充実するとともに、子どもや子育てを地域全体で見守り、支援する環境づくりを進めます。支援制度・環境を充実させることで、結婚・出産・子育てに関する負担や不安の軽減を図り、出産や子育てに希望を持てる地域社会の実現を目指します。

#### KPIの検証及び今後の取組み

##### 【子育て拠点利用者数【市内5か所の合計数】】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
18,298人	16,162人	7,170人	5,663人	7,458人	15,468人	19,000人

新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことに加え、地域でのイベント開催や SNS を活用した広報・周知により、利用者数は増加しました。感染症対策をはじめとした衛生管理の徹底を図りながら、対面や参加型のサロンや教室を充実させ、安心して利用できる環境を整えていきます。

##### 【子育て支援アプリ登録者数】

※令和3年度まで。(令和4年度からはLINE公式アカウント「天理市はぐ〜る」友だち登録者数)

H30 (基準値)	R1	R2	R3 R4.3~LINE導 入	R4	R5	R6 (目標値)
1,021人	1,268人	1,492人	1,703人 (LINE220人)	LINE603人	LINE891人	2,500人 (LINE800人)

目標値である800人は達成しており、今後も天理市の子育て支援事業や「はぐ〜る」でのイベント情報など子育て世帯に有益な情報を提供することで、友だち登録者の増加を図ります。「母子モ」に代わる情報発信アプリとしてLINEを活用し、子育てに役立つ情報を届けていきます。

##### 【お母さんのゆっくりとした気分でお子さんと過ごせる時間があると答えた割合】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
64.8%	68.3%	72.0%	69.2%	67.2%	67.3%	70.0%

ゆっくりと子育てできる時間がある人の割合は横ばいで推移しています。今後も、育児の不安やイライラ、育てにくさから生じるストレスを抱える養育者に対し、保健師やドゥーラが寄り添い、継続して伴走的支援を行っていきます。



【保育サービスの充実に満足している市民の割合(%)】

R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
32.7%	25.4%	24.9%	26.7%	27.4%	35.0%

令和5年度に私立保育施設が2園開園し、保育枠が増加したことにより待機児童数が「0」になったものの、希望する保育施設への入所が叶わず保留となっている世帯は、一定数あります。

待機児童数は、令和6年4月1日現在も「0」となっています。引き続き「0」を継続できるよう取り組みます。

令和5年度から本市で開始された病児・病後児保育事業をはじめ、一時預かり事業、幼稚園における長時間預かり保育をより広報・周知に努め、就労支援及び保育サービスの利用向上につなげていきます。

少子化の加速及び保育ニーズの増加並びに施設管理の観点から、公立施設においては、幼保再編を推進していきます。

## 3-2 特色ある教育の充実

郷土の自然や文化を学ぶ視点を大切にしながら、児童生徒に「生きる力」を育むために「確かな学力」「豊かな人間性」「たくましい心身」の育成を目指します。また、基礎学力の向上を図るとともに、本市の強みである国際性・芸術文化・スポーツ等を活かした特色ある教育環境を整えることで、子育て世代に魅力ある教育を提供します。

### KPIの検証及び今後の取組み

#### 【高校・大学との連携事業数】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
19件	12件	3件	1件	1件	18件	25件

新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度から令和4年度までは連携事業数は減少しましたが、令和5年度において、基準値程度まで回復しました。

令和5年度は二階堂高校と添上高校と連携し、市内小学校2校において、体力テストを実施しました。また、天理大学と連携し、瑞山市中学生と市内中学生との国際交流において、国際学部韓国・朝鮮語専攻の学生による通訳や、教員を目指す学生による市内小中学校での学校支援ボランティア、タイムトラベルプロジェクトでの地域の魅力発信の募集や案内を市内小学校2校で行いました。令和6年度も、引き続き二階堂高校や添上高校、天理大学との連携を進めていきます。

#### 【学校と協働した地域活動に参加してくれるボランティア数】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
16,327件	19,506件	13,296件	14,396件	15,977件	17,285件	18,000件

新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度以降ボランティア数は落ち込みましたが、年々回復してきました。今後、学校三部制(※)の考えのもと、セキュリティなど安全面に十分配慮しながら、地域ボランティアの積極的な関わりを推進し、学校・地域が共にこどもたちの様々な教育課題の解決及び地域の教育力向上を図ります。

(※)学校三部制・・・学校施設の活用方法として、学校教育の活動を一部、学童や放課後の活動を二部、これらに類しない地域の活動を三部と位置づけたもの

#### 【小中学校の教育環境が充実していると感じる市民の割合】

R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
48.3%	35.4%	39.8%	45.1%	45.1%	60.0%

一人一台端末を活用した授業や、令和5年11月からは小中学校に電子黒板を導入するなど、ICTを活用した授業の充実を図っています。また、デジタル分野以外でも、みんなの学校プロジェクトによる地域の方とこどもたちとの交流により、教育の充実を図っていきます。

### 3-3 地域で育てる子育ての推進

すべてのこどもの成長を育むために、地域や専門機関と連携した支援体制を整備し、地域全体で子育てに携わる仕組みを構築します。また、児童生徒が放課後等を安全・安心に過ごすことができる居場所づくりを推進します。

#### KPIの検証及び今後の取組み

##### 【地域への学校(多目的室)開放利用者数】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
752人	920人	374人	450人	354人	345人	800人

地域コミュニティ機能を有し、多世代が集うことができる地域連携型の学校を推進するため、多目的室や図書室などの地域開放を進めています。

井戸堂小学校と前栽小学校では、土曜日、日曜日に利用登録をしている校区内の団体に、多目的室の開放を実施しています。また、櫛本小学校、前栽小学校では、園児・保護者を対象に学校図書館の開放を実施し、ボランティア団体等による絵本の読み聞かせ等を行っています。ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響で活動が自粛され利用者数が減っていましたが、今後は地域の方が利用しやすい環境をより一層充実させ、利用者の増加を図ります。

##### 【放課後等の教育活動への延べ参加者数】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
1,827人	2,127人	1,406人	2,292人	2,784人	2,343人	2,000人

放課後子ども教室、地域未来塾、町力塾への年間延べ参加者数です。放課後等の教育活動の一環として取り組んできた「サタデースクール」を、令和6年度は「みんなの学校プロジェクト」の学校三部制の活動と位置づけ、会場を市内各小学校に移すことで、より地域に根付いた取組みとなることを目指し、地域がこどもを育む活動をより一層充実させ、参加者の増加を図ります。

##### 【今住んでいる地域の行事に参加している児童、生徒の割合】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
50.6%	25.9%	42.5% <sup>(※)</sup>	34.8%	34.8%	38.5%	60.0%

各校区では、伝統行事、夏祭りなど長きにわたり続いている伝統行事があります。新型コロナウイルス感染症が第5類へ移行したことに伴い、回復してきており、児童生徒の参加も増えてきつつありますが、まだまだ少ない状況です。そこで天理の良さを伝えるために「天理みりよく発見～be a time traveler～」として夏休みに調べ学習を市内小中学校で実施し、児童生徒がまとめた作品110点をなら歴史芸術文化村で展示することで、地域の魅力を感じる児童生徒を育みました。

(※)令和2年度は全国学力・学習状況調査(小6・中3)が実施されなかったため、天理市独自の生活・学習アンケート(小3～中3)の指標を使用。

## 子育て応援・相談センター ～ほっとステーション～

教育・保育現場で起こるいじめや友だちとのトラブルなどのこどもの行動、学校生活の様子、学校園所での対応や受け止め方に保護者は不安を感じ、悩みを抱える場合があります。

令和6年、市立の小学校・中学校・幼稚園・保育所・こども園・学童保育所へ通う家庭を対象に、学校でのトラブル、先生方や学校へのご意見・ご要望、こどもの学びや育ち、子育てへの悩みなどの相談を受ける窓口として「ほっとステーション」を開設しました。

ほっとステーションでは、保護者の不安や悩みに寄り添いながら、経験豊富な校長や園所長経験者、心理士（師）、作業療法士などがチームとなり、「学校生活等で見えている課題だけでなく、見えていない（隠れている）課題や不安」に対して、専門家の見立てに基づいて事態を客観的に整理し、学校・園・所および市役所の福祉部局とも連携しながら「こどもまんなか」の視点をもって課題の根本的な解決を目指しています。



## 4 垣根を越えた連携・協働で、暮らしやすく、住み続けたいまちをつくる

### 政策分野の方針

従来の垣根を越えて市民・団体・事業者・行政等の多様な主体同士が連携・協働・支え合いを図ることで地域の課題を解決し、地方創生に向けた取組みを効果的に推進します。

こどもから高齢者まで属性や世代、障害の有無にかかわらず地域で暮らすすべての人々が安心して生きがいを持てることは、地域活性化の基本となります。すべての市民が健康づくりに関心を持ち、病気の予防に取り組めるよう健康管理を支援します。また、医療・介護、地域の連携による、生活上の困難を抱える方への包括的支援体制の構築を推進します。



#### 数値目標の検証及び今後の取組み

##### 【健康寿命(65歳以上平均自立期間)】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
男性18.09年 女性20.40年 (H28)	男性18.04年 女性20.46年 (H29)	男性18.21年 女性20.55年 (H30)	男性18.24年 女性20.40年 (R1)	男性18.20年 女性20.33年 (R2)	男性17.97年 女性20.22年 (R3)	男性18.36年 女性21.04年

男女ともに、一時期は健康寿命が延びていましたが、近年は低下傾向にあり、令和5年度は基準値を下回っています。

中高年からの健康づくりとして、自主活動グループを支援し教室を開いてもらうなど生活習慣予防の推進を図りました。また、天理大学との協働事業として健康づくり講演会や体力測定講習会を開催し、77名が参加されました。引き続き、健康づくりのための取組みを行っていきます。

##### 【地域全体でお互いに支え合い助け合う機会や仕組みが充実していると思う市民の割合】

R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
32.9%	37.4%	43.1%	46.1%	41.1%	35.0%

令和3年度以降、地域の支え合いの仕組みが充実していると思う市民の割合は40%を超えており、コロナ禍における自粛の影響はありましたが、徐々に地域住民の支え合い活動を推進するための天理市生活支援サポーターやハローパートナーシップメンター等のボランティアが養成されてきた結果と考えられます。今後は地域住民の支え合いや地域の絆づくりを推進するとともに、自治会活動や地域活動等への参加を通じてコミュニティ意識を深め、地域への愛着を高めることにより次代に引き継ぐべき地域づくりを推進し、地域住民の定着化を目指します。

### 【住みやすいと感じている市民の割合】

R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
73.1%	68.9%	71.3%	68.5%	62.7%	75.0%

住みやすいと感じている市民の割合は年々減少傾向にあり、基準値を下回っています。市政アンケートの結果から、住みやすいと感じていない人は「電車やバスなどの公共交通機関の利便性」に不満を感じているとの意見がありました。全国的に公共交通の維持が課題となっている中で、令和5年度に奈良県内で初めてAIを活用したデマンド型乗り合い送迎サービス「チョイソコ」の実証実験を行い、令和6年度より本格運行を始めました。

また、住みやすさの向上と職住近接のため、都市機能や住居の緩やかな誘導を行うことで、コンパクトシティの実現を目指します。

さらに、市民が支え合い暮らしていけるよう、「デジタル地域通貨(イチカ)」や「みんなの学校プロジェクト」などの施策を引き続き推進します。

## 4-1 地域で支え合う暮らしやすいまちづくり

市民に対して地域活動への理解を深め、参加を促進することにより、市民が地域コミュニティの一員としての役割を認識し、地域住民同士で支え合いながら主体的にまちづくりに関わる地域を目指すとともに、市内の各地域の持つ特性を残し活かしながら、地域間の移動・交流を図れる基盤を整備します。

### KPIの検証及び今後の取組み

#### 【自治会加入率】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
59.3%	59.2%	59.4%	58.9%	59.6%	59.0%	60.2%

自治会加入の推進を行うため、転入される方に対して、市民課において加入案内のリーフレットを配布していますが、地域住民同士の関係性の希薄化により加入率が伸び悩んでいます。「自治会加入のメリットを感じられない」との声もあり、その部分をどう解決していくかが課題です。加入案内を行うだけでなく、ホームページやSNSも活用しながら、自治会加入のメリットを周知していきます。また、公民館とも協働しながら自治会加入の促進に努めます。

#### 【地域の通いの場の数】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
26件	31件	41件	46件	55件	59件	56件

生活支援コーディネーター及び地域包括支援センターを中心に新たに4カ所で「通いの場」を立ち上げ、地域主体の活動のサポートを行うことができました。また、天理大学体育学部と連携し、通いの場において体力測定や運動教室「いきいきチャレンジ」を行いました。今後も引き続き、いきいき百歳体操や活脳クラブを中心に「通いの場」を共に創り、高齢者の社会参画と生きがいづくりを支援していきます。

**【防災協定等の締結数】**

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
49件	51件	55件	56件	63件	67件	60件

罹災証明書の申請支援に係る覚書、避難所となる市内の県立高校との協定など、令和5年度は新たに4件の災害に関する協定等を締結しました。

大規模災害時において、行政のみでは対応が困難な事態が想定されます。今後も、官民連携による安全・安心な防災体制の構築を図っていきます。

**【令和5年度締結の防災協定等一覧】**

協定名称	相手方	協定内容
大規模災害時における道路啓開や停電復旧に係る応急措置の実施の支障となる障害物等の除去等に関する覚書について	関西電力送配電(株) (令和5年6月27日)	道路啓開や停電復旧に係る応急措置
天理市とあいおいニッセイ同和損害保険(株)との地方創生に関する包括連携協定書及び広域水災発生時の罹災証明書申請に関する覚書	あいおいニッセイ同和損害保険(株) (令和5年9月21日)	罹災証明発行支援
災害時における避難所等施設利用に関する協定書	三甲(株) (令和5年12月7日)	避難場所の提供
災害時における避難所等施設利用に関する協定書	奈良県立二階堂高等学校・奈良県立二階堂養護学校・奈良県立添上高等学校 (令和6年3月7日)	避難場所の提供

**【公共交通機関の利便性が充実していると思う市民の割合】**

R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
25.6%	29.0%	35.2%	36.7%	30.7%	30.0%

全体的な満足度は目標値を上回っていますが、令和5年度の調査では、デマンドタクシーの満足度が64.3%と一番高く、続いてコミュニティバス東部線、コミュニティバス西部線の順となっていました。デマンドタクシーの需要が高まってきていることから、令和5年度、奈良県で初めてAIを活用したデマンド型乗り合い送迎サービス「チヨイソコ」の実証実験を行いました。

結果、地域住民、特に高齢者の日常生活における利便性の高い移動手段であるということ、利用者の多くが本サービスの利用の継続を希望していることが確認できました。令和6年度からは本格運行を始め、よりきめ細やかな日常の移動手段の確保を図り、多くの方に利用していただける公共交通サービスを目指します。

## 4-2 健康づくりの環境の充実

社会保障制度を十分に活用しながら、医療や福祉等の様々な側面から地域において高齢者や子ども、障害者等のすべての住民を支える仕組みの構築を目指します。また、市民に対し様々な機会を活用して、自分自身で日常的に健康管理を行うことを啓発し、各種検(健)診の受診や日々の健康づくりを積極的に行う意識を定着させることを促進します。

### KPIの検証及び今後の取組み

#### 【各種がん検診(大腸、胃、肺)受診者数】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
6,403人	5,951人	4,700人	5,030人	4,973人	4,976人	7,100人

コロナ禍における受診控えの影響から、現在においても受診数が回復しない状況です。

令和5年度は、がん検診を受診するとイチカポイントを獲得できる健康ポイント事業を実施し、受診への動機づけを行いました。令和6年度はポイントを増やして、更なる受診者数の獲得を目指します。また、本市と協定を締結している(株)スギ薬局や大塚製薬(株)等の民間事業者と連携し、啓発を行います。

#### 【各種健診や相談等の健康づくりが充実していると思う市民の割合】

R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
59.2%	60.1%	79.9%	77.9%	76.1%	65.0%

令和3年度以降、75%を超える市民が本市の健康づくりが充実していると回答しています。令和5年度は、がん検診の受診者やウォーキングの実施者にイチカポイントを贈呈する健康ポイント事業を実施するなど、さらなる健康づくりの取組みを推進しました。今後も、健康ポイントの付与をきっかけに市民の健康づくりの推進を図ります。



### 4-3 垣根を越えた連携の取組み

地方創生の実現に向けて、地域課題に合わせて、県や近隣市町村との広域連携、大学、金融機関、商工・観光団体等の多様な主体との連携による地域を挙げての各種施策の展開等、広域的・相補的な地方創生を目指します。

#### KPIの検証及び今後の取組み

##### 【大和まほろば広域定住自立圏での連携事業数】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
19件	19件	19件	19件	19件	19件	25件

令和5年度も連携事業担当者会議や、企画担当者会議において、既存事業の充実化及び新たな連携事業について検討を進めました。また、「大和まほろばネットワーク」という圏域の愛称の決定や、公式Instagramの開設により圏域の情報を発信するなど、定住自立圏の取組みを周知してきました。

既存の連携事業以外にもデジタルの分野、不登校や引きこもり対策についても圏域市町村担当者で意見交換会を実施しました。

今後も、圏域住民にとってメリットのある事業を連携して進めていきます。

##### 【県との連携事業数】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
16件	6件	6件	10件	11件	11件	18件

奈良県企業版ふるさと納税連絡協議会の活動として、企業からの寄附獲得に向け、奈良県及び県内市町村が協働して県内一体となったパンフレットを作成し、県主催の企業とのマッチング会に参加しました。

また、なら歴史芸術文化村と連携し、県市連携による文化財の修復や文化財の公開活用、「ミニチュア銅鏡の鑄造体験」や「勾玉づくり」など歴史文化を体験できるイベントを実施しました。

今後も引き続き、奈良県と連携した取組みを推進していきます。

##### 【他市町村との連携・共同事業取組数】

H30 (基準値)	R1	R2	R3	R4	R5	R6 (目標値)
10件	10件	10件	11件	11件	11件	12件

他市町村との連携による事業については、「大和まほろば広域定住自立圏における各種連携事業」、「山添村とのシステムのクラウド化」の実施など、今後も継続して他市町村との連携を図っていきます。

【令和5年度締結の連携協定一覧】

協定名称・相手方	協定目的・内容等
天理市と(株)大和農園との包括連携協力に関する協定 (令和5年6月29日) ----- (株)大和農園	地方創生を推進するため、農業、産業、教育など様々な分野において地域経済の活性化など様々な分野において連携し、地域社会の発展に寄与することを目的とする。 (1) 農業に関する事。 (2) 産業の振興に関する事。 (3) 教育及び福祉に関する事。 (4) まちづくりに関する事。 (5) その他地方創生に関する事。
なかよしキッズボールパーク及び自動販売機設置協定 (令和5年7月1日) ----- (一社)天理青年会議所	田井庄街区公園に、「なかよしキッズボールパーク」及び「自動販売機」を設置し管理する。
天理市と(株)奈良クラブの包括的な連携協力に関する協定 (令和5年7月9日) ----- (株)奈良クラブ	スポーツの推進、教育、観光振興、広報など様々な分野においてそれぞれの活動の充実を図るとともに、地域連携を積極的に推進し地域社会の発展に寄与することを目的とする。 (1) スポーツの振興及び健康づくりに関する事。 (2) 青少年の健全育成に関する事。 (3) シティプロモーションに関する事。 (4) 観光、農業分野等における地域貢献活動、地域の活性化に関する事。 (5) 市民に対するチームのPRに関する事。 (6) その他、甲の行政、事業の連携など、前条の目的を達成するために必要な事項
天理市と奈良トヨタグループとの移動支援による地域活性化に関する協定 (令和5年7月10日) ----- 奈良トヨタグループ	地域の移動支援に関する事業に取り組むことで、市民の移動手段の確保や、地域活性化の推進を図ることを目的とする。 ○連携・協力事項 1. 移動支援サービスに関する事 2. 地域活性化に関する事 3. 市民の生活支援に関する事 4. 高齢者の健康増進に関する事 5. その他、相互に連携、協力することが目的の達成に寄与すると認められる事項に関する事

<p>天理市とあいおいニッセイ同和損害保険(株)との包括連携協定並びに広域水災発生時の罹災証明書申請に関する覚書 (令和5年9月21日)</p> <p>あいおいニッセイ同和損害保険(株)</p>	<p>それぞれの資源を有効に活用した協働による活動を推進し、地方創生の実現に資することを目的とする。</p> <p>・包括連携協定</p> <p>(1) 地域・暮らしの安全・安心に関する事。 (2) 防災・災害対策に関する事。 (3) 産業振興・中小企業支援に関する事。 (4) 観光振興に関する事。 (5) 農業の振興に関する事。 (6) その他、地方創生に資する取組に関する事。</p> <p>・広域水災発生時の罹災証明書申請に関する覚書</p>
<p>ゼロ・ウェイスト社会の実現に向けた連携に関する協定書 (令和5年10月3日)</p> <p>TerraCycle Japan(同)</p>	<p>プラスチックごみをはじめ、廃棄物が限りなく削減されたゼロ・ウェイスト社会の実現に向けて連携・協力していくことを目的とする。</p> <p>(1) 企業、地域等が協働した、環境負荷のより少ない商品・サービスなど環境ビジネスの創出促進に関する事。 (2) プラスチックごみ削減の取組に対する技術的協力に関する事。 (3) 環境学習に関する事。 (4) その他廃棄物の発生抑制、再利用及び再生利用の3Rの推進に関する事。</p>
<p>脱炭素化等に向けた取組に係る連携協定書 (令和5年11月14日)</p> <p>大和信用金庫</p>	<p>天理市内における脱炭素への取組を促進し、綿密な相互の連携によって天理市の発展・サーキュラーエコノミーの実現に寄与することを目的とする。</p> <p>(1) 天理市内における脱炭素化等への意識醸成及び取組促進 (2) 中小企業における脱炭素化等に向けた設備投資を促進・支援する取組 (3) 一般家庭における電気自動車(EV)・太陽光発電設備・家庭用蓄電池等の設置を促進・支援する取組 (4) その他天理市内における脱炭素化等に向けた取組</p>
<p>天理市と(株)モンベルとの連携と協力に関する包括協定 (令和6年3月14日)</p> <p>(株)モンベル</p>	<p>緊密な相互連携のもと、アウトドア活動等の促進により、社会が直面する課題に対応し、(県市町村)内地域の活性化及び(県市町村)民生活の質の向上に寄与することを目的とする。</p>

## AIデマンド交通サービス「チョイソコてんり」

高齢化の進展や免許返納の増加が予想される中、令和5年7月、奈良トヨタグループと「移動支援による地域活性化を推進するための協定」を締結しました。

令和6年4月からは、本市と奈良トヨタグループ及び交通事業者による官民連携の事業実施体制により、AIデマンド交通サービス「チョイソコてんり」の運行を開始しました。従来のコミュニティバスよりも目的地までの所要時間が短縮されることや希望の時間に利用できるなど、利便性の向上を図り、暮らしを支えることができる持続可能な公共交通の実現を目指しています。

